

Title	大規模小売業における商品戦略と経営成果
Sub Title	
Author	久留米唯人(Kurume, Tadato) 片岡一郎
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1982
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001982-0197

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	久留米 唯 人	主査	片 岡 一 郎
	(ジャスコ株式会社)	副査	和 田 充 夫
所属ゼミナール	和 田 充 夫 研		嶋 口 充 輝

大規模小売業における商品戦略と経営成果

本研究は、低成長経済下における我が国チェーンストアの成長戦略展開の道を探ることを目的とし、その基盤を商品戦略に求めるものである。

そのための具体的な方法として、大手チェーンストアの約50の店舗を対象に、商品分類を分析の単位として、PIMSアプローチを採用することにより、市場法則性を解明し、商品戦略構築に貴重な示唆を得ようとするものである。この解明を行うために、10の経営成果を規定する要因を選定し、それらと経営成果との関連を究明し、分析を行った。

分析の結果は、おおむねSPIによって行われた小売業におけるPIMS研究の中間的結論及びマーチャンダイジング上の経験則的なものと一致しているが、幾つかの新しい発見もみられる。従来の経験則として明らかであったものに関しても、具体的な根拠を得たことは、一つの成果として評価できよう。

こうして得られた成果は、破局的な環境変化の進行の中で、新たに有効な商品戦略を開発し、“もうけの仕組み”を作り直す上で、極めて有効なものになると考えられる。